

令和3年度 学校評価報告書

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A: そう思う B: ややそう思う C: あまり思わない D: 思わない E: わからない

評価 A: 十分満足である B: ほぼ満足である C: 改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員評価
				A	B					
総務部	広報活動の強化	リニューアルしたホームページの運用を軌道にのせ、よりきめ細やかな情報発信を継続して行い、充実した広報活動を展開する。	教員(1)・保護者(13)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	教職員97.9% 保護者90.5%	A	●年度当初は、HPのアクセス数、記事作成数ともに前年に比べ増加していたが、コロナ感染の第5波が到来した夏以降、減少傾向が続いた。結果として、12月現在では前年比2割減の結果となったが、コロナ禍の中、各学科での行事ごとの記事作成は十分にできたと考えている。全国農業高校・農業大学校デジタルコンテストホームページ部門において、本校HPが2年ぶりに島根県代表に選出された。次年度は、部活動の大会ごとの記事更新が課題である。	○引き続き各科・各分掌においては、各行事ごとの記事作成(HP更新)を実施する。次年度は、部活動単位の記事作成(HP更新)を大会ごとに実施できるように努力したい。	A
	PTA活動の活性化	①PTA総会・PTA評議員会・高P連全国大会ボランティア・農業祭でのPTA活動などを通じて保護者との連携を深め、教員と保護者の相互理解を深める。 ②PTA会報の発行(4月下旬、7月下旬、2月下旬)、ホームページを頻りに更新すること等により保護者への情報発信に努める。	教員(2)・保護者(18)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	教職員87.0% 保護者81.0%	B	●コロナの影響で、8月に予定されていた全国高等学校PTA連合会大会島根大会もオンライン開催となり、昨年同様に、PTA総会・農業祭の一般公開等も中止となり、家庭と学校との情報交換の場がほとんど確保できず、十分なPTA活動はできなかった。 ●年3回のPTA会報(第3回は2月下旬発行)を発行できたが、学校から家庭への情報発信だけになった。	○次年度も年3回のPTA会報を発行し、情報発信は続けていきたい。会報が保護者の皆様にも必ず渡るように、配布時に生徒の皆さんに呼びかけるだけでなく、PDFにしてHPに掲載することも併せて実施したい。	B
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をとおして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒(17)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生徒95.0%	A	●遅刻に対する生徒の意識は高い。しかし、学年が上がるにつれて遅刻数が増加する傾向がある。	○生徒指導部、進路指導部、各科などとともに学校全体として遅刻しないよう呼びかけると同時に、遅刻の多い特定の生徒に対しては健康相談部の協力も得ながら学校への気持ちを高めさせる事が必要と思われる。	A
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や文章読解・作成能力検定、英語検定、農業技術検定の全生徒受験に加え、各専門資格への挑戦をとおして生徒のキャリアアップに努める。	1,2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合 3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合	90%以上	80%以上	1年:43.8% 2年:73.4% 3年:94.5% (1/28現在)	B 1年はC	●全員受験のものや希望者受験のものなどがあるが、各教科・各学科において、組織的な指導が行われ、成果があった。	○直接的に指導する教科・各学科だけでなく、その他の教科も横断的に資格に関わることで、基礎学力の向上、資格取得への意識の高揚が図れると思われる。 ○1年生の漢字検定については、教科や学年部による組織的な指導を行って生きたい。	B
生徒指導部	校外で積極的な挨拶の実践	生徒会、風紀委員、教員と毎朝の挨拶運動を実施。全校集会、学年会などで呼びかける。	教員(3)・保護者(9)・生徒(14)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	教職員72.9% 保護者89.4% 生徒96.8%	B	●挨拶に関しては、生徒会、風紀委員会を中心とした挨拶運動や各クラス・各部活動等で継続的に指導していただいている。また、挨拶の大切さは進路学習等の様々な場面で繰り返し呼びかけている。 ●学校全体で粘り強く取り組むべき課題であると考えている。	○部活動顧問や進路指導部などと連携を取りながら継続的に指導していく。 ○今年度に引き続き、年度初めの全校集会を利用したりしながら全校生徒に呼びかけていく。	B
	自転車の交通マナーの強化	全校集会、学年会、自転車小屋などでマナーや命を守ることを呼びかけ、学期に1回の街頭指導において連携しながら注意・指導をしていく。	教員(4)・生徒(16)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	教職員71.7% 生徒97.5%	B	●交通事故の件数は減少傾向(一昨年15件、昨年7件、今年6件)にあるが、いまだ交通事故はなくなる。継続的に粘り強く交通マナーと命の大切さを指導していく必要がある。	○街頭指導、全校集会等の呼びかけなどの粘り強い指導を継続していく。	B
進路指導部	生徒の進路実現を達成するための体系的な指導体制の構築	面接指導・小論文指導(3年)、進路ガイダンス・進路希望調査・キャリア・パスポートを効果的に進行。	教員(5)・生徒(29)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	教職員97.8% 生徒92.3%	A	●進路希望調査は計画通りだったが、結果をさらに有効に活用する必要がある。 ●2年生の進路ガイダンスがコロナ禍で日程調整がつかなかった。	○生徒の進路希望の状況を学年(横)だけではなく、学科(縦)への周知を目指す。 ○2年生の進路検討会において、ガイダンスを行わなかったことによる影響を考慮し、次学年につなげる。	A
	本校の特色を生かした進路決定	インターンシップ、プロジェクト発表、農場当番、意見発表、鑑定競技などの農業高校ならではの取り組みが、面接ノート(3年)、キャリア・パスポートに適切に記録されるよう促す。	保護者(11)・生徒(25)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	保護者93.4% 生徒91.6%	A	●キャリアパスポートが進路探求にどのように生かされ、またこれから生かしていくかを考えていく必要がある。	○生徒の諸活動がキャリアパスポートに蓄積されているという自覚を持たせるために、面接対策ノートを作成する際のマニュアルの中に落とし込む。また、『進路の手引き』に明記する。	A
健康相談部	保健関連行事の適切な運営と新型コロナウイルス感染症対策の実施	健康診断や健康教育、生徒の健康管理並びに教育環境の維持等に資する各種行事を適切に実施すると共に、新型コロナウイルス感染症予防の啓蒙、対策の支援とその環境整備に努める。	教員(6)(7)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	教職員97.7%・91.8%	A	●新型コロナウイルス感染症拡大の中、関係機関や校内の協力を得て、大きな混乱もなく保健関連行事の着実な遂行、教育環境の維持等図れたことは大きな成果であった。 ●先が見通せない感染症に対し、今後も基本的な予防対策が緩みなく、一致継続できるか課題である。	○感染症が長期化する中、慣れによる気の緩みが最も心配される。基本的な予防対策が習慣化されるよう日々の啓蒙、周知の徹底を図りたい。	A
	教育相談活動の充実	関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。	教員(8)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	教職員91.3%	A	●問題を抱える生徒について、早期の把握、情報共有、協議を通じて支援につなげることができた。 ●問題解決につなげられない難しい事例もあった。	○関係教職員、学年部等の協力を得ながら、情報の早期把握、共有化を図り、連携した支援体制を継続していく。	A
図書部	校内の連携体制に努め「みんなで作る図書館」を目指す	①生徒・教職員による選書やリクエストに対応し、魅力的な蔵書を構築する ②展示やイベントなど、図書委員を中心とした生徒の活動を活発に行う	一人平均7冊以上の読書量(貸出冊数)	90%以上	80%以上	一人平均3.9冊	C	●今年度はWeb上のサービスや各種イベントの開催など、新たな取り組みも試みたが貸出冊数にはつながらなかった。	○次年度は広報活動の方法を見直し、また生徒が日常的に本に触れられる環境を作ることで現状を改善していきたい。	B
	知的好奇心を醸成する開かれた学びの場として、生徒・教職員の学校生活を支援する	①多様な資料を提供する ②ICT機器の有効的活用の支援	教員(9)・生徒(33)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	教職員95.9% 生徒97.8%	A	●今年度は電子書籍を導入し、また生徒のニーズに応じた図書委員による選書活動を実施して、多様な資料を提供できた。	○次年度は、電子書籍から電子図書館(新刊や生徒のニーズを反映した蔵書と貸出ができるシステム)へ拡充し、さらなる環境整備に努めたい。	A
寮務部	意欲的な学習態度の育成	通常時60分、試験期間90分の学習時間の確保と、個に適した学習環境(食堂、舎室)を提供する。	教員(10)・保護者(17)・生徒(23)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	教職員100% 保護者76.5% 生徒79.0%	A	●通常時と試験期間のメリハリをつけることができた。	○次年度も継続していく。	A
	快適な寮生活を目指して、寮内の環境美化の推進	①週番業務により責任感を持った寮生活を送るよう指導する。 ②自治意識を持ち、互いに注意し合える雰囲気をつくる。	教員(11)・保護者(16)・生徒(24)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%以上	70%以上	教職員100% 保護者70.6% 生徒94.9%	A	●①については2年目の取り組みとなり、先輩から後輩へきちんと指導がなされて生徒はしっかりとこなした。 ●②については点呼時に寮長から寮生に注意喚起をする場面も見られた。	○次年度も継続していく。	A

令和3年度 学校評価報告書

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A: そう思う B: ややそう思う C: あまり思わない D: 思わない E: わからない

評価 A: 十分満足である B: ほぼ満足である C: 改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員評価
				A	B					
農場部	研究活動の推進	①実験・実習を積極的に展開する。 ②生徒主体の探究的学習を推進する。	教員(12)(13)・保護者(1)・生徒(3)(26)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 60%以上	教職員100%・95.2% 保護者99.4% 生徒93.0%・95.5%	A	●プロジェクト学習での研究活動と総合実習での技術習得においては、生徒・教職員とも比較的意識が高いと思われるが、発表会や競技会での成績に繋がるようにしていきたい。	○次年度も継続していく。	A
	専門科目関連への進路実現	①専門関連への就職指導をより充実させる。 ②自営学科(農林大学校等)への進学指導を強化する。	教員(14)・保護者(11)・生徒(9)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 60%以上	教職員90.0% 保護者93.4% 生徒87.5%	A	●地域との協働事業の成果もあり、将来は関連産業を希望する生徒も増えてきている。 ●国公立大学などの進学に備えた取り組みも必要。	○進路を意識した専門科目指導を行っていく。	A
植物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(15)(16)・保護者(9)(10)・生徒(14)(15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員96.3%・100% 保護者89.4%・93.3% 生徒96.8%・98.4%	A	●基本的な生活習慣を身に付けてはいるが他者への配慮や思いやりを持った行動がとれるよう身に付けてほしい。	○授業の始まりや終わり、実習や作業などメリハリを持たせる指導や工夫を行う	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業の充実を図る。 ②資格取得に向けての意識付け指導を行う。	教員(17)(18)・保護者(2)・生徒(3)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員95.9%・92.1% 保護者93.5% 生徒93.0%	A	●意欲的に取り組む生徒が増加しており満足度も高い。	○目標や目的を明確にして、継続的な指導を行う。	A
環境科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守を徹底させる。 ②気持ちの良いあいさつや言葉づかい、服装の指導を行う。	教員(19)・保護者(9)(10)・生徒(14)(15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員100% 保護者89.4%・93.3% 生徒96.8%・98.4%	A	●自発的・主体的に行動する姿勢を養い、周囲への気配りや他人を思いやることのできる人になって欲しい。	○次年度も継続していく	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業を充実させる。 ②資格取得に向けての指導を強化する。	教員(20)・保護者(2)・生徒(3)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員95.9% 保護者93.5% 生徒93.0%	A	●目標を持って物事に取り組むことの大切さを実感して欲しい。	○次年度も継続していく	A
食品科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(21)・保護者(9)(10)・生徒(14)(15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員96.2% 保護者89.4%・93.3% 生徒96.8%・98.4%	A	●挨拶・時間厳守・自己表現などの基本的な生活習慣が定着しつつある。	○引き続き場に応じた対応ができるよう普段からの指導を大切にしていきたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	「農業と環境」「課題研究」を中心に問題解決型学習の充実を図り、専門教科への主体性と探究心を育てる	教員(22)・保護者(2)・生徒(3)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員96.3% 保護者93.5% 生徒93.0%	A	●自ら考え解決していく学習スタイルが構築されつつある。	○論理的思考力や情報分析の力を身につけられるよう指導方法を工夫していきたい。	A
動物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(23)(24)・保護者(9)(10)・生徒(14)(15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員92.6%・100% 保護者89.4%・93.3% 生徒96.8%・98.4%	A	●教員、生徒ともに良い結果であった。継続して取り組むとともに自己満足にならないよう取り組みたい。	○継続して指導していきたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業を充実させる。 ②家庭学習を利用し、専門知識の定着を図る。	教員(25)(26)・保護者(2)・生徒(3)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員100%・100% 保護者93.5% 生徒93.0%	A	●生徒の取り組みは良好であった。レベルアップをはかりたい。 ●家庭学習課題の質、量の向上を目標としたい。	○課題研究は発表会等があるが家庭学習の取り組みや実習時の取り組みが生徒に目に見える形で表れるよう工夫をしていき全体のレベルアップを図りたい。	A
一年部	基本的な生活習慣・学習習慣の確立	①クラス、授業、学年集会等で物事に見通しをもって取り組むことについての指導を行う。 ②マナトレを中心とした学習へ意欲的に取り組むように指導する。	教員(27)(28)・保護者(9)(10)・生徒(7)(14)(18)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員100%・94.4% 保護者89.4%・93.3% 生徒30.7%・96.8%・98.6%	A	●「十分満足である」と答えられる生徒が少ないことが気にかかる。家庭学習時間が少ない生徒が多いため、学習への理解度が不足し、学習に対して自信を持っていないと考えられる。	○定期考査のほか、資格取得を通して学習を積み上げていった成果を確認できる場を多くさせていき、学習への自信を持たせていきたい。	A
	地域へ視野を広げようと行動する探究心を持った生徒の育成	専門科目に意欲的に取り組むよう指導する。	教員(29)(30)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員100%・85.3%	A	●評価は高く、生徒は意欲的に専門科目や実習に取り組んでいたと考えられる。	○2年生からの課題研究に向けて興味・関心あるものをさらに深めたいと考えていきたい。	A
二年部	社会に通じるコミュニケーション力を持った生徒を育成する	場に応じた挨拶や言葉遣い、活動や態度、発言や発表ができるように指導する。	教員(31)・保護者(9)・生徒(14)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員84.8% 保護者89.4% 生徒96.8%	B	●生徒自身は「自分は挨拶ができています」と思っているが、保護者や教職員からの見方は違って「社会に通じる、場に応じた言葉遣いや態度」が十分伴っていないと評価されているのではないと思う。	○様々な生活指導や進路指導の場面を通して、「社会に通じる挨拶」とは「相手より先に、目を見て、明るく元気にできる」ことを指導していきたい。	B
	自ら学び、社会に貢献できる生徒を育成する	「SA」「HR活動」ほか担当科目等を通して、資格検定やインターンシップの目的や意義を意識した指導を充実させる。	保護者(22)・生徒(11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	保護者73.4% 生徒71.9%	B	●日本農業技術検定(12/11実施)や文章読解作成能力検定(1/26実施)といった全員受験の検定に取り組んだが、まだ可否結果が出る前の回答だったことが影響しているかもしれない。	○進路実現の観点からも、他の希望者受験の検定についても積極的に案内し、資格取得率を高めた。	B
三年部	最高学年として他の模範となる生活態度を実践し自己管理能力を身につけた生徒の育成	各クラスでの各授業、HR活動や学年集会を通して指導していく。 様々な場面でふさわしい言葉遣いやあいさつができるように指導する。	教員(32)(33)・保護者(9)(10)・生徒(14)(15)(18)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員87.1%・78.0% 保護者89.4%・93.3% 生徒96.8%・98.4%・98.6%	B	●概ね達成できたのではないかと考える。ただ、挨拶も含め言葉遣いなど不十分な生徒も見られ、教員の評価がやや低かったと思われる。しかし、昨年あった生徒と保護者の間での乖離があまりなく、昨年より保護者の評価が上がった点は良かったのではないかと。 ●コロナ禍で、学年でのレクリエーションができなかったことは残念である。	○昨年同様コロナ禍での学年行事(遠足を含む)の計画を慎重に進めていく必要がある。	B
	進路実現に向け、情報の収集や分析を主体的に行い、進路決定ができる生徒の育成	①週に1度学年会を実施し、生徒の情報交換を充実させる。 ②困り感を抱えている生徒の支援について、健康相談部からの情報提供とアドバイスを受けなど連携していく。	教員(34)(35)・生徒(25)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員87.1%・92.6% 生徒91.6%	A	●評価基準を大きく上回っており進路指導部との連携が取れ、進路実現に向けての効果的な指導ができた。	○コロナ禍が続く、就職・進学とも地元志向が強くなるのが予想されるので、より県内企業等へのアピールが必要だろう。	A
事務部	学校の快適かつ安全な教育環境の整備に努める。	学校教育環境の整備において、緊急性・必要性を考慮して整備するとともに、適切な施設・設備の維持管理に努める。	保護者(14)(15)・生徒(35)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	保護者93.9%・92.0% 生徒84.1%	A	●施設・設備が老朽化している中、保護者には高い評価をいただいた一方で、生徒の評価が少し低く、身近で目立たない部分の維持管理が不十分であると思われる。	○今後は、生徒からの情報も参考に、適切な施設・設備の維持管理に努めていきたい。	A
	出雲農林高校満足度の向上	教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	保護者(25)・生徒(1)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	保護者90.4% 生徒86.6%	A	●生徒全体の満足度が90%を切る結果となった。その要因として、コロナ禍で学校行事の中止や縮小など生徒の活躍の場が減ったことが原因と思われる。 ●充実した学校生活を送っていると答える生徒が大半を占める中、悩みを抱える生徒に寄り添える体制を一層強化していく必要がある。	○安心、安全に学校生活を送れるためにいじめやSNSなどの生徒間トラブルや、不登校傾向にならないようにするための対策や早期対応に一層強化していくと共に、個別面談等で、個々の抱える問題にいち早く気づき、寄り添う指導体制をより強化していく。	A